

**発展練習問題 3-3**

<解答>

(1)	4/10	(借) 材	料	42,900	(貸) 買	掛	金	39,000
						材	料	副
						費		3,900
(2)	4/14	(借) 材	料	26,400	(貸) 買	掛	金	24,000
						材	料	副
						費		2,400
(3)	4/22	(借) 仕	掛	品	34,000	(貸) 材		料
								47,600
			製	造	間	接	費	13,600
(4)	4/30	(借) 材	料	副	費	6,250	(貸) 現	金
								6,250
			材	料	副	費	50	材料副費配賦差異
								50
			材料消費価格差異	875		材		料
								875

**【解説】**

材料の予定価格と材料副費の予定配賦が両方含まれている問題となっていて、基本練習問題よりも難易度が高まっている。特に両者の差異を同時に処理する4月30日の仕訳が複雑になっているが、材料副費配賦差異を意識しながら材料消費価格差異の処理を行うことが必要になる。

(ア) 材料副費の処理

10日と14日の仕訳で材料副費の予定配賦額は6,300円であるのに対して、当月に実際に支払った材料副費は6,250円であるから、これより、①材料副費を現金で支払った仕訳と、②材料副費配賦差異を計上する仕訳がそれぞれ必要になる。ここで、材料副費は  
 予定配賦額 6,300円 > 実際発生額 6,250円 だから 50円の貸方差異となる。

(イ) 材料消費価格差異の処理

22日の仕訳より材料の予定消費額は47,600円である。これに対して、実際消費額を計算して、③材料消費価格差異を計上する仕訳が必要になる。当月の材料購入額は、材料の購入価額に材料副費の実際発生額を加えたものだから、10日と14日の仕訳と、材料副費の実際発生額の合計69,250円となり、当月の材料購入数量は500kgなので、これより消費単価を計算すると、

$$(39,000 + 24,000 + 6,250) \div (300 + 200) = 138.5 \text{ 円}$$

したがって、実際消費額は138.5円×350kg=48,475円となり、予定 < 実際 だから材料消費価格差異は875円の借方差異となる。

以上より①～③に相当する仕訳が解答の4/30の仕訳(上から順番に①・②・③)となる。